



まさか…
上様が？

いやいや…
上様が城から出る
などとはあり得ぬ…



!!

日本で…
大君が登城の際に
暗殺されたと…

The Philadelphia Inquirer



少しさかのぼる四月二十三日
フィラデルフィア

村垣様！
大変です！

なんだ
騒々しい

こ…これを
ご覧ください



……
これは誤報かもしれぬ
余計な心配をかけぬよう
新見殿と小栗殿意外には
口外せぬように

は…
はい…

五月十三日
一抹の不安を抱えながら
使節団一行は日本へ向けて
ニューヨークを出航する



さて帰路は
東に帆路を向け
アフリカの最南端
喜望峰をまわって
日本へ向かうから
かなり日数が
かかるんじゃないや

ヘルデ神話島
ホルト・グラン

パタゴニア



涼しさや
帰国催ひの
いくさ船

ナイアガラ号は
長さ六十間(百十¹/₂以上※
士官四十二人・水夫五五八人
大砲も十二門搭載した
フリゲート艦じゃ
アメリカの大型艦だから
つけられたそうじゃ



別れを惜しむ者
帰国を喜ぶ者
悲喜交々の出航じゃ！

あああああ
ぼくの恋人たち

わああああん!!

幕末に
世界一周
やってみた

10

構成 川合登志和
漫画 秋篠

※実際には375フィート



なぜ食料がないのかって？
実はアメリカ人には味噌や醤油の匂いが
ダメらしくてな
ニューヨーク出航時に全部捨てさせられて
しまったんじゃよ…

ええっ!!

Throw away!

ここへ寄港したのは
薪や水や食料を補給するためじゃったが
水すら現地の人間でも困っておるので
石炭だけ補給になった



五月三十一日の夜
ナイアガラ号はアフリカ大陸の西
ポルトガル領サン・ヴィセンテ島の
ポルト・グランデ※に到着した

早いな!

マンガ
じゃからの!

※大港という意味 ポルト・グランデは貿易船の補給地として栄えた



買ってくれない
のかい？
この…

助平



日本？
聞いたこともないね
それよりパイナップル
買っておくれよ

あんたら
日本で国は
知ってるかい？

い…いやあ
パイナップルは
いらぬよ…



パイナップルは
いかが？

パイナップル
買ってよ!



食糧事情は
ますます悪くなってな…
食べ残しの豆などを煮たり
甲板に飛び込んできた
トビウオを焼いて一口ずつ
食べたりにしておった

そんな事もあった後
ナイアガラ号は次の寄港地である
ロアンダへ向かったんじゃが…



小魚を焼いて
一口ずつ食べた

三杯の食事ですら
この魚はあつた



助平？

あ…?!
いや…わしは
なにもしとらんで!

すけべ？

What's Sukebe?!

誤解じゃ！
というか日本を
知らんのなんで
そんな日本語を
知っておるんじゃ?!



嫌きらわわる、草くさはしげ茂らりて蘭らんはミズ

樹液じゆりやくに触ふつたら死しんじやうからな！
本ほん当だうだぞ！

おお：脅おそかささないで
くくだださいよ！



君きみたち！上あ陸りくするなら毒どく草そうに
気きを付つけるんだぞ！

ニニューウヨウーククから随ずい分ぶん
来きたのう

六ろく月げつ二に十じゅう二に日にち
ポポルトルトガガルル領りやうロロアアンンダダ着ちやく

毒どく草そう？

※現アンゴラのルアンダ



そこそこままで
飢うええととららんわ！

実じつはアアメメリリカカ人じんが
「日にっ本ぽん人じんは人ひとを食くう」と
ほほららを吹ふいたからでああった



ぎぎゃああああああ！
食くべべないでええ！

つつかかままええて
醬じやう油ゆかかけて
食くっちゃやうぞお！

おおいいおおい
怖おそががつつととるじゃろ！



気きのせせいいか原げん住じゆ民みんに
避さけけらられれてないか？

日にっ本ぽん人じんをを見みると
逃にげげておるのう？？

南十度降↓



素す毛もうが歌うったヤケクソの歌うたは
いいつつししか小こ言ごんをを言いう役人たちまで
口くちずずささむむよよううにななった



…と一いち句く詠えいんではみみたものの
いいよよいいよよ醬じやう油ゆが切きれてしままつての
ももううヤヤケケククソソの歌うたでも歌うわんと
ややつつととれれんわ！

ナナイイヤヤナナイイヤヤナナイイヤヤカラ
先まずず第だい一いちに湯ゆ水すいがナイ
新あたらももナナイイ炭すすももナナイ
三さん度どの食く事じに菜さいがナイ
味あじ噌そうももナナイイ醬じやう油ゆももナナイイ鰹かつお節ふしナナイイ干か魚ぎよナナイ
魚いけけたたご飯いは風かぜ味あじがナイ
たたままたたまま美う味あじいいと替かわりがナナイ
諸しよ人じんの小こ言ごんも無む理りはナイ
小こ言ごんを言いうも仕し方かたがナイ
墨すみももナナイイ筆ふでももナナイイ石いし炭すすがナイイ風かぜがナイ
船ふねは行いかかナナイイ帆かは利きかナイ
ぶぶつつぶぶつつ言いうも聞ききもナナイ
おお上うのの手て当あててにに抜ぬけけ目めナナイ
かかれれここれれ言いうのは勿なりナイ



ああききかかぜぜ ふふねねけけむむりり ゆゆくくええ
秋あき風かぜにに船ふねの煙けむりの行ゆく衛えかな

ロロアアンンダダをを出い航かうして十じゅう日にち後ご
ナナイイアアガガララ号ごうは喜き望ぼう峰ほうの沖おき
三さん百ひゃく里りほほどどを航かう行こうしていた

※300里=1200kmほど



左に見えてきたのが南天竺のスマトラ島か：
てんじく
天竺をはるかに霧の晴れ間哉
きり
は
まかな

途中モーリシャス島などに寄港する予定じゃったが早く帰国したいと上役の方々は断ったそうじゃ



バタビアへ向かう船上では怪奇現象騒ぎもあってマストに怪しい鬼火が現れ大騒ぎになったんじゃよ

※セントエルモの火



八月十七日
バタビアに到着

ここには十日ほど滞在して一行はようやく風呂に入ることができたんじゃがこれがまたぬる〜い湯で結局水をかぶるだけじゃった

さて我々賄い方には重要なミッションが課せられたんじゃ！
それは…



わしらは二〜三合瓶の醤油を二百本ほど買ったんじゃが中には醤油を買ってその場で魚を焼いて食べた者もおったそうじゃ

オランダ商人が長崎から運んだもので二年以上経っておって味も落ちておったが

和蘭相興支店常務役



日本人のソウルフード
醤油の調達！



さすがに百日ほど醤油を口にしてなかったものじゃから皆へるへろでな

生き返る〜！
しみる〜！

やはり日本人は醤油がないと辛すぎる！
じゃろうな！

海軍少将の使者 佐野 鼎



九月十日
香港に到着

えっ？
なんだって！

町を歩いていた佐野鼎は
アメリカの船に日本人がいると聞かされる



とはいえ嬉しいニュースも
あったんじやよ！
あの咸臨丸が無事に品川に
着いたとのことじやった

——ところが：
一行はロアンダでオランダ語新聞から
衝撃の事実を知ることとなった
井伊大老の暗殺である
遣米使節のきつかけを担った
井伊大老が暗殺されたとなれば
日本は攘夷の嵐の渦中であることは
誰にも簡単に想像できた
なにより使節団一行をここまで
かいがいしく面倒をみてくれた
アメリカ側への対応が懸念された



どうかお願いです
日本へ連れて行って
ください！

ちなみに
第九話で話した
ジョセフ・ビュの
同乗者じやよ！



はい
この亀五郎は十年ほど前に
熊野沖で遭難し
アメリカの商船に助けられ
水夫としてこの香港へ
やってきたとのことす



なに？
日本人の漂流者だど？！



とら
す
やま
虎の住む山ぐるぐると秋深し
あきふか

ナイアガラ号が江戸へ到着するのは
十日後の事である



九月十八日
ナイアガラ号は
二十一発の祝砲に見送られ
最後の寄港地を出航した



長かったアメリカへの旅も
まもなく終わるんじやな…

あの島影は台湾じやな
出発した頃は冬だったのに
もう秋の風が吹いておる

第11話へ
つづく

日本へ帰ってきたら
様子が全く変わっておった！

外国へ行き井伊様が進めた条約の
批准書交換に行った役人たちは
いつ攘夷派に命をねらわれるかと
口をつぐんでおった



じゃがわしは役人じゃないから
誰もわしの命なんぞ狙わない

あちこちで外国の話が聞きたいと
ひっぱりだこでまさにバズって
フォロワー急増という感じじゃった

しかし
時代の荒波は素毛の運命を狂わせる



ジャワのタバピアに寄港した時
面白い名前の芋があったんじゃ
なんと「太郎」と言う名がついて
おった！人の名前のようにじゃろ！
里芋みたいじゃから
醤油があれば煮ころがしにして
食べられるんじゃがの

そういえば季節もちょうど
中秋の名月の頃じゃのう…

芋の名もをかきき国や今日の月



おまけ

当時江戸の町に
苗を売りに来ていた
苗売りの掛け声を真似て
作った戯れ歌じゃよ



苗売

古泉老戯(素毛)作

ナイヤナイヤナイヤカラ
先第一に湯水がナイ 薪もナイ 炭もナイ
三度の食に菜がナイ 鮭の切身は喰い人(て)がナイ
江戸から特越諸色がナイ 味噌もナイ 醤油もナイ
鯉節ナイ 干魚ナイ 揚げた御飯は風味がナイ
たまたまうまいと替わりがナイ パンはあれども砂糖がナイ
諸人の小言も無理はナイ 小言を言うても仕様がナイ
伊勢の親父はいくしかナイ 附添従者はつまらナイ
墨もナイ 筆もナイ 煙艸(たばこ)は尽きて小もナイ
適(たまたま)有ってもくれ人(て)がナイ
買うと言うても売り人(て)がナイ 金銀有ても工夫がナイ
雪隠一つ間に合わナイ 船将士官はあたじけナイ
深切がナイ 情けがナイ 何と言うても分からナイ
航海するのには気張りがナイ 石炭がナイ 風がナイ
船は行ナイ 帆は利かナイ 港へ着くのも見当がナイ
地方へそんなに遠くナイ 風さえよければ訳はナイ
ぶつぶつ言うても聞きともナイ 御上の手当にぬけめナイ
彼是言うのは勿体ナイ